

平成20年3月期 中間決算について

ANAグループでは、本日10月31日(水)、平成20年3月期中間決算の概況を取りまとめました。詳細は別添の「中間決算短信」をご参照ください。

1. 平成19年9月中間期の連結業績

(1) 連結経営成績

① 概況

- ・ 国際線旅客において、ビジネス需要を中心とした個人需要が堅調に推移し、大幅な増収となりました。ホテル事業セグメントの売上高が減少要因となっていますが、航空運送事業の売上高向上により、過去最高の営業収入を確保しました。
- ・ 原油市況の高騰を受けて、燃油費は前年同期比約205億円の増となりましたが、その他コストの抑制に努めた結果、営業費用は120億円の増となりました。

ホテル事業資産の譲渡益を特別利益に計上した結果、当期純利益は過去最高の1,055億円となりました。

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成19年9月中間期	平成18年9月中間期	増減	前年同期比(%)
営業収入	7,632	7,528	104	101.4
営業費用	6,961	6,840	120	101.8
営業利益	670	687	▲16	97.5
営業外損益	▲103	▲107	4	—
経常利益	567	579	▲12	97.9
特別損益	1,120	▲11	1,131	—
当期純利益	1,055	332	722	316.9

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成19年9月中間期		平成18年9月中間期		増減	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
航空運送事業	6,661	627	6,293	607	368	20
旅行事業	1,139	18	1,090	24	48	▲5
ホテル事業	—	—	334	31	▲334	▲31
その他の事業	973	25	995	23	▲21	1

※連結子会社82社 持分法適用非連結子会社5社 持分法適用関連会社18社

②国内線旅客事業

- ・ より一層の競争激化により期前半は旅客数が伸び悩みましたが、「旅割」運賃の機動的な設定や「NIPPON 2 キャンペーン」など、需要喚起ならびに競争力強化に向けた各種施策が奏功し、期後半は旅客数が持ち直しました。
- ・ スターフライヤーとのコードシェアを開始し、ネットワークの拡充・利便性の向上に努めました。

以上の結果、旅客数は前年同期実績をやや下回りましたが、4月の運賃改定および需要動向に応じた適切な座席配分により旅客単価が向上し、収入は前年同期実績を上回りました。

(売上高の億円未満は切り捨て)

【国内線旅客事業】	平成19年9月中間期	平成18年9月中間期	増減	前年同期比(%)
売上高(億円)	3,812	3,729	82	102.2
旅客数(千人)	23,036	23,393	▲357	98.5
座席キロ(百万座席キロ)	31,700	31,460	240	100.8
旅客キロ(百万人キロ)	20,168	20,471	▲303	98.5
利用率(%)	63.6	65.1	▲1.5	—

③国際線旅客事業

- ・ 引き続き旺盛なビジネス渡航需要に支えられ、旅客数は上半期を通じて好調に推移しました。
- ・ 中国線では成田＝広州線を増便した他、中部＝上海線等で機材の小型化による需給適合を進めました。また、成田＝ロンドン線に燃費効率のよいボーイング777-300ER型機の投入を開始し、一層の収益力強化に努めました。
- ・ 成田＝ムンバイ線を全席ビジネスクラス仕様の「ANA BusinessJet」(ボーイング737-700ER型機)で開設し、急成長している日本～インド間のビジネス需要の取り込みを図りました。

以上の結果、ビジネス旅客の着実な取り込みにより、旅客数および旅客単価が向上し、収入は前年同期実績を大きく上回りました。

(売上高の億円未満は切り捨て)

【国際線旅客事業】	平成19年9月中間期	平成18年9月中間期	増減	前年同期比(%)
売上高(億円)	1,621	1,382	238	117.3
旅客数(千人)	2,425	2,239	185	108.3
座席キロ(百万座席キロ)	14,113	12,839	1,274	109.9
旅客キロ(百万人キロ)	10,764	9,996	768	107.7
利用率(%)	76.3	77.9	▲1.6	—

④貨物事業

- ・ 国内線は、競争が激化する中でも輸送量は前年同期実績を上回り、収入はほぼ前年同期並みの実績を確保しました。
- ・ 国際線は、米国 ABX Air 社への委託運航開始により、貨物専用機が自社保有4機とあわせて合計6機体制となってネットワークが充実したこともあり、輸送重量、収入とも前年同期実績を上回りました。

(売上高の億円未満は切り捨て)

【貨物事業】		平成19年9月 中間期	平成18年9月 中間期	増減	前年 同期比(%)
国内線	売上高(億円)	150	151	0	99.5
	輸送重量(千トン)	225	224	2	100.8
	輸送量(百万トンキロ)	217	216	1	100.3
国際線	売上高(億円)	342	285	57	120.0
	輸送重量(千トン)	159	128	31	124.3
	輸送量(百万トンキロ)	778	577	200	134.7

(2)連結財政状態

- ・ ホテル事業資産の譲渡による資金の回収により流動資産が増加し、総資産は前期末から917億円増加しました。
- ・ 引き続き財務体質の改善に努め、有利子負債は前期末から932億円圧縮しました。
- ・ 自己資本は、5,041億円となり、自己資本比率は29.8%となりました。また、D/Eレシオが1.3倍に改善しました。

(億円未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成19年9月中間期	平成19年3月期	増減
総資産(億円)	16,938	16,020	917
自己資本(億円)(注1)	5,041	3,982	1,059
自己資本比率(%)	29.8	24.9	4.9
有利子負債残高(億円)(注2)	6,561	7,494	▲932
D/Eレシオ(倍)(注3)	1.3	1.9	▲0.6

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(3) 連結キャッシュ・フローなどの状況

- ・ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益1,687億円に減価償却費や営業活動にかかわる債権債務の加減算を行った結果、1,115億円となりました。
- ・ 投資活動によるキャッシュ・フローは、航空機への投資などもありましたが、ホテル事業資産譲渡による収入が大きく、1,302億円の収入となりました。
- ・ 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金返済や社債償還などにより、1,016億円の支出となりました。

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成19年9月中間期	平成18年9月中間期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,115	1,138
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,302	▲ 355
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲1,016	▲ 838
現金および現金同等物期末残高	3,126	2,371
減価償却費	464	416

2. 通期の見通し

2007年4月27日に公表しました連結業績予想について、現時点での変更はありません。

単位：億円(億円未満は切り捨て)

【平成20年3月期見通し】	業績予想	前年実績 (平成19年3月期)	増減
営業収入	14,900	14,896	4
営業利益	790	921	▲131
経常利益	460	625	▲165
当期純利益	640	326	314

以上